



青南だより

平成30年9月号

港区立青南幼稚園
園長 新山 裕之

<豪雨の中でウサギは…>

7月の西日本豪雨では、私たちの仲間である国公立の幼稚園やこども園でも大きな被害がありました。岡山のある園で、園で飼っているウサギのことを心配した保護者が、豪雨の中、園庭のウサギを助けに来てくれたそうです。ところが小屋の鍵がかかっている状態だったので開けられない…。と調べてよく見ると、木のすのこの上にウサギはちょこんと乗っていた。水が引いた後、うさぎは無事に元気を取り戻したそうです。保護者との連携を築いてきたからこそ生まれた、うれしいエピソードです。



長い間お疲れ様。ハリエンジュの木

<離れていても全国の仲間と助け合う>

一階全部が水没してしまった園では、絵本がふやけて棚から取り出せなかったそうです。それでも、近隣の先生やPTAの仲間が復旧作業を手伝ったり、画用紙や折り紙などを集めて届けたりしているそうです。東京からできるお手伝いは少ないですが、同じ仲間の窮状を黙って見てはいられません。国公幼と全幼Pが連携して、全国の仲間と支援金の呼び掛けをしています。いつ逆の立場になるかもしれません。大人も子どもも、自分事として受け止めていただき、ご協力をお願いします。



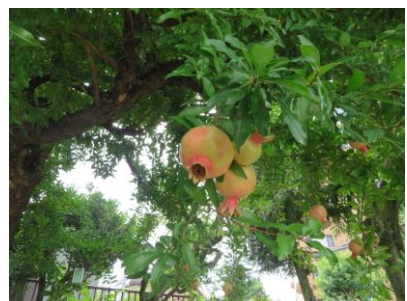
木の幹はこんなに空洞化していました

<日常も非常時も、知恵のある自分自身が大事>

8日(土)の心の子育て講座は、アウトドア防災ガイドのあんどうりすさんに防災についての講演をお願いしています。私があんどうさんに依頼した大きな理由は、目の前の状況を的確に判断し行動する「自分自身」が一番の防災グッズだということ、今まさに子どもたちに育みたい姿勢、大人が忘れかけていることを教えてくれるからです。防災を通して、子育てにつながる深い話となり、自然を感じる感覚が命を守ることにともつながることも納得できるはず。乞うご期待。



猛暑の中、この中で作業してくれています



不思議な姿、形のザクロ、味はどうでしょう?

青南の 二十四節気

・・・長月(ながつき)・・・

白露(8日)・・・そろそろ秋の空気に入れ替わります・・・

秋分(23日)・・・暑さ寒さも彼岸まで、といいますが・・・

この夏は梅雨明けが早く、セミの声が7月から聞こえ、記録的な猛暑でした。そのお陰か手入れの成果か、ブドウやザクロ、モモの成りも抜群です。ブドウはとて甘くておいしいです。

それでも朝晩は少し涼しい風が吹き始め、草むらから鳴く虫の声(羽をこすり合わせて音を出しているのですが)が聞こえるようになりました。この虫の音で季節の移り変わりを感じられる日本人の感性の素晴らしさ…、大切にしたいですね。



例年になく実りの豊かなブドウはぜひ味わいたいですね